写真でふりかえる60年のあゆみ

総合健康支援サービス機関への軌跡をたどる

協会の原点

神奈川県民の健康と福祉の向上に寄与することを目指して設立された公益財団法人神奈川県予防医学協会は、昨年1月、創立60周年を迎えました。これはひとえに当協会をご利用くださるお客さまお一人おひとりと、行政をはじめ大学や医師会等の数え切れない関係者・団体のご指導、ご支援の賜物です。

当協会は昭和30年1月24日、横浜市南区中村町の県衛生研究所の一隅を借りて（写真上　右）、神奈川県寄生虫予防協会として誕生しました。寄生虫を予防する草の根運動のスタートです。その後、長期欠席児童の多くが腎臓病であることから、昭和38年に学校検尿を開始。学校保健法に尿検査が導入される10年前のことでした。

さらに疾病構造も、感染症からがんを はじめ生活習慣病へと変化。それに対応し、予防医学の新たなる分野への積極的な開拓を図ってきました。以降、母子保健・学校保健・地域保健・産業保健・環境衛生など広範な分野にわたって活動を展開していくことになります。

今回は60年の軌跡を写真で振り返り、私ども神奈川県予防医学協会の予防医学活動を、ごく断片ではありますが、ご紹介いたします。

初代理事長・青木巽が開業する医院の庭先に構えた検査室・事務所（昭和32～34年）

神奈川県寄生虫予防協会発足（昭和30年）①

小学校での尿検査風景②

農村での寄生虫検査の説明会

検診と検査

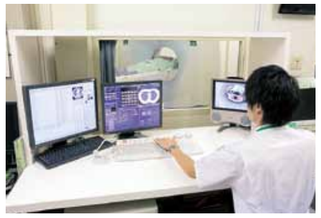
昭和38年に中区長者町に中央診療所を開設、胃がん検診を始めました。その翌年には協会初の胃がん検診車「長寿号」が稼働。昭和44年には施設での子宮がん検診を開始。また県産婦人科医会・日本母性保護医協会と共働した郵送スメア方式の子宮がん検診が始まりました。

学校保健では、行政・大学病院・医師会・専門医らとともに、各地域で判定委員会を組織・運営し、スクリーニングから患児の管理まで一貫したシステム作りに参画しました。そのさきがけは、腎臓病検診（尿検査）で全国のモデルとなりました。

医療技術の進歩にともなう最新のテクノロジーの導入として平成8年、ヘリカルCTを用いた肺がん検診を開始、これは県下で初の試みでした。

細胞診・子宮がん検診

学校検尿判定委員会



マルチディテクタCT

3Dマンモグラフィ

事業場での胃がん検診・長寿号③

労働衛生

昭和47年、労働安全衛生法が施行されました。「真に価値ある健康支援サービスの創造」を目標に、精度の高い健診の提供はもとより、環境調査部門も開設。昭和48年には健診の事後措置の充実をめざし、保健師による保健相談サービスを、昭和55年には健康教育センターを開設し、高質な健康教育・健康づくりの支援にも努めてきました。

健康診断の快適な受診環境はもちろん、働く人一人ひとりが心身ともに健康でいられるための健康支援サービスをこれからもご提供してまいります。

労働衛生機関の機能を集約した集団検診センター（昭和47年）⑤

読影風景

作業環境調査は昭和45年に開始

昨年５月に改装した中央診療所・一般健康診断受付

保健相談

生活習慣病の予防・改善の各種プログラム

がん征圧月間ではパレードを実施④

ポータブルデバイスを用いた「未病の見える化」・当協会循環器病予防医療部部長・杤久保修医師

県庁をピンクに染めるライトアップセレモニー・ピンクリボン運動⑥

社会貢献

昭和40年、日本対ガン協会神奈川県支部となり、がん征圧運動を展開。また急増する乳がんから女性を守るため平成18年からピンクリボン運動を開始、平成20年には活動母体「ピンクリボンかながわ」を組織しています。

健康寿命日本一を目指す神奈川県の「未病を治すかながわ宣言」に当協会も呼応し、実証実験の立案・参加などさまざまな取り組みを行っています。それらの成果を踏まえ、昨年12月「かながわME－BYO（未病）見える化センター」として県内初の認定を受けました。

沿革

昭和
- 30年　・神奈川県寄生虫予防協会として発足①　寄生虫予防運動を開始
- 38年　・日本寄生虫予防会が設立され、神奈川県支部となる　・中央診療所を横浜市中区長者町に開設　学童腎臓病検診②・消化器検診③を開始
- 39年　・財団法人神奈川県予防医学協会設立　予防医学運動を推進
- 40年　・日本対ガン協会の神奈川県支部になる　各種がん検診を開始　・がん征圧運動を展開④
- 41年　・財団法人予防医学事業中央会が設立され、神奈川県支部となる
- 42年　・横浜市中区住吉町「松村ビル」に事務所・中央診療所を移転
- 44年　・全国労働衛生検診機関連合会（後の全国労働衛生団体連合会）の設立に参加　労働衛生運動を推進　・人間ドックなどの施設検診を拡充　・集団検診センターを開所（横浜市金沢区鳥浜町）⑤
- 47年
- 55年　・事務局・中央診療所を横浜市中区日本大通の「日本大通ビル」に移転　・健康教育センターを新設し、健康教育活動を本格化。総合的な健康づくり活動を展開　・県民の公衆衛生活動に貢献したことにより第42回保健文化賞（団体賞）を受賞
- 平成2年
- 4年　・集団検診センター新館が竣工し、各種検査の受け入れを拡大
- 11年　・労働衛生機関評価機構より第1回労働衛生機関評価認定を受ける
- 17年　・創立50周年を迎える　・ピンクリボン運動を展開⑥
- 18年
- 20年　・ISO9001認証（水質・簡易専用水道検査・作業環境調査）取得
- 24年　・公益財団法人の認定を受ける
- 27年　・創立60周年を迎える